

都道府県番号	35
都道府県名	山口県

()

・学校名及び規模

萩市立萩西中学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4				2	14	28
生徒数	130	127	146				4	407	

・実践研究の概要

・主題（テーマ） 「豊かな心をもち、主体的に行動できる生徒の育成」
 - 「確かな学力」をつけるための支援の工夫 -

・テーマ設定の趣旨

本校では、「確かな学力」を、「確かな学力」=「生きる力」と捉え、基本的な生活習慣、人間関係づくり能力などの「基本的な生活能力」、学習指導要領に示された「基礎基本となる学力」、そして、それらの力を包括し、自分の人生に「知恵」として実践化されるものとして、「生きる力」があると考えた。

<研究仮説>

学びの環境を整えるとともに、「心の教育」の充実を図り、一人一人の能力や個性に応じた学習の展開を工夫すれば、生徒の学びは主体的になり、「確かな学力」が定着していく

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

本校では、「少人数学級によるきめ細かな指導」を実施している数学科・外国語科だけでなく、全教科において「確かな学力」の向上に取り組むため、共通の実践目標を検討した。「調査研究部」が7月に実施した生徒のアンケートから「生徒はまだ受け身の学習が多いこと」が分かり、平成14年度は、「意欲をもって学習に取り組む生徒」を教科における共通重点課題に設定し、その課題を具現化するために「各教科の目指す生徒像と具体的な取組」を教科部会で検討した。そして、それを踏まえての授業実践や授業評価を試みた。

() 実践研究の内容

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善や児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善については「自己選択制を取り入れた習熟度別学習での少人数指導の工夫」「一人一人の学びに応じた選択教科の工夫」と下記に示した「生徒の意欲を引き出す授業の工夫」の3点を柱として取り組んできたが、ここでは授業評価を中心に説明を行う。

日々の授業において生徒の意欲を引き出す授業を目指し、授業内容や形態の工夫改善に取り組む。

そのために

- ・全教科で授業評価を実施し、改善に役立てる。
(授業評価アンケートの検討)
- ・研究授業を実施し、研鑽を積む。

〔生徒による授業評価の方法〕

全教科(9教科)、2学期から学期に1回アンケートを実施し、実施した授業評価については、考察を行い、改善等を検討した。

〔生徒による授業評価の具体的な内容〕

全教科（9教科）での授業評価のアンケート内容については、研究職員会で検討を行った。

* 1, 2の質問は全教科共通とし、3以降の質問は教科・単元により変更あり。

平成 年 月 日	年 組	番 氏 名				
1	授業に積極的に取り組むことができましたか。	できた	ある程度できた	あまりできなかった	できなかった	
		1	2	3	4	
2	その理由を書いてください。（全員）					
3	先生の質問・説明がよく分かりましたか。	1	2	3	4	
4	「3」、「4」の人はその理由を教えてください。					
	ア 言葉が難しいから	イ 説明が早過ぎたから	ウ 聞き取りにくかったから			
	エ その他（ ）					
5	板書はわかりやすかったですか。	1	2	3	4	
6	板書の内容や自分の考えをノートやプリントにまとめることができましたか。	1	2	3	4	
(例) 外国語科授業アンケート			【質問1】は上記とほぼ同じ			
【質問2】英語の少人数授業について						
1	少人数授業は学習がしやすい。・・・・・・・・・・	1	2	3	4	
2	少人数授業はわかりやすい。・・・・・・・・・・	1	2	3	4	
3	クラスで教え方が違うと思う。・・・・・・・・・・	1	2	3	4	
4	クラス単位より少人数授業の方が好きだ。・・・	1	2	3	4	
5	時にはクラス単位の授業もしたい。・・・・・・・・	1	2	3	4	
6	少人数クラスは自分の希望で選びたい。・・・・	1	2	3	4	
7	クラスは習熟度（理解度）別がよい。・・・・・・・・	1	2	3	4	
少人数授業のいいなと思う点を書いてください。						
これまでの授業でいやだなと思うところを書いてください。						

〔授業評価を受けての授業改善への取組〕

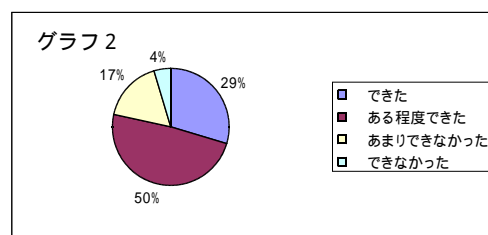
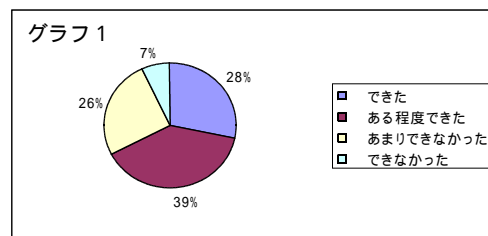
実施した授業評価の中で生徒から出た意見については、考察を行い、指導方法の工夫改善を試みている。

次の授業評価・考察の例は国語科からの抜粋であるが、授業への提案等を見ても生徒たちが「分かるようになりたい。」という思いや、積極的に授業に関わりたいという気持ちを持っていることがわかる。

国語1年授業評価 2学期（古典）

平成14年 12月実施（対象：1年生 116人）

7. 時間が十分にあってノートやプリントをきちんとまとめることができましたか。（グラフ1）
- * 板書は分かりやすいと答えている生徒も書く時間については足りないと感じている者が3割程度あり、授業での「書く時間」の保障がなかったと反省させられる。せめて授業の最後5分程度は必ず板書を確認しながら書く時間を取りたいと思う。
8. 古典の学習の仕方について理解できましたか。（グラフ2）
- * 古典の導入部分であったことと、古典学習のポイント（声に出して読む練習、基礎的な歴史的仮名遣い、大切な古語の押さえ方、隠れている主語の確認等）を繰り返し学習したことが に反映していると思われる。



9. 今回の授業の仕方・内容等で、何か提案があれば書いてください。

もう少し漢字の方を重点的にしてみてもいいと思います。

本文の内容を絵で表すようにする。もっとやってみよう。(複数)(これまでの授業の中でやったこと)

古典の後半の部分もプリントを使ってほしい。プリントでまとめる形式がわかりやすい。

新出漢字の気をつけるところ、間違いやすいところを板書してほしい。

授業の始めにリーダーが読むのはいいいやり方だと思います。

週に1回ぐらいミニテストがあった方がいいと思う。(複数)

〔9〕での生徒の提案を見ると、生徒は1～2時間というスモールステップでの学習の確認を望んでいる。学習プリントや漢字の小テストも2～3週間ごとに行っているが、今後は授業の進度を考えながらできるかぎり1週間での確認テスト、漢字小テストを考えていきたい。また、今回の単元では話し合い活動をほとんど取り入れていなかった。生徒は生徒同士で意見を深めたいという思いをもっていることがよく分かり、教師自身が授業を進めることに終始していたことが反省させられた。

〔少人数指導の状況〕

習熟度別クラスについては、数学科・外国語科で、3年生は1学級を3つのコースに分けて2人の教師で指導を行い、1,2年生では2学級を3クラスに分けて3人の教師で指導を行っている。全学年とも単元ごとに生徒に希望調査を行って実施しているが、自己希望制を通して、生徒は常に自分の力を評価しながら習熟度別クラスの選択を行っており、次第に生徒の自己評価能力が育ってきているように思う。また、何を学習するためにこのクラスを選んだのか、生徒自身が強く意識するようになり、目標をもって習熟度別クラスに臨む生徒が増えてきている。

() 成果と課題

< 成果 >

「学力観」について共通理解を図ることができた。

授業評価を行うことで、教師が自分の授業について生徒の視点に立って振り返ることができ、教師の意識改革を図ることができた。

少人数指導などを通して生徒の自己評価能力や意欲の向上が見られつつある。

< 課題 >

個に応じた指導をすべての教科で行うための指導方法の工夫改善

「確かな学力」の定着状況を把握するための客観的な評価のあり方

本校では、2年間少人数指導に取り組んできたが、それを実施していない教科や一斉指導の中でどう個に応じた指導を行うか、これができて初めて「確かな学力」の向上につながるのではないかと考えている。

評価においては、生徒の意欲等は、本年度のように授業評価を通して把握することができるが、それ以外の力が本当に定着したのか、評価テストの活用なども含めた客観的なデータをどう集めていくかが大きな課題であると言える。

また、評価規準についてはこれまで作成したものを各教科で見直している段階であるが、「この単元では何の力を何をもとに見るのか」を教師側がしっかりと作成することで、生徒を診る窓口を持つことができると考えている。

() 成果の普及方策

授業評価の結果については、まず教科内、学校内で検討し、教科での特徴、教科を離れての共通課題等について考察を行い、共通実践できそうな指導方法等は広く様々な教科で取り入れてみることにした。その上で、有効と思われる教材や指導方法等は来年度以降の研究協議会やHPで普及活動を行っていききたいと考えている。

また、本年度の取組の成果と課題については、すでに実施した平成14年度萩管内学力向上フロンティア事業地区協議会でも授業公開と共に発表しているが、各校に3月末に配布予定の研究集録等で普及していききたい。